

# 平成 30 年度 女性委員・会員と議会の意見交換会 (記録)

1. 開催日時 平成 30 年 11 月 18 日 (日曜日) 午前 10 時 00 分～午前 11 時 30 分
2. 会 場 胎内市産業文化会館 2 階会議室・教養文化室
3. 実施要領 常任委員会別に 3 グループに分け、それぞれのテーマを設定し意見交換を実施。
4. 参加者 22 名 (市内の女性委員・会員【14 団体】)  
青少年育成市民会議、市 P T A 連絡協議会、板額会、J A 胎内市女性部  
市介護予防・日常生活支援体制整備推進協議会、中条町商工会女性部、  
黒川商工会女性部、保健推進委員、農村地域生活アドバイザー、胎内市  
民生児童委員連合会、胎内市消防団、胎内美人妻の会、胎内市男女共同  
参画推進委員会、市内保育園・こども園保護者会
5. 意見交換内容

## 【1 班】テーマ：『子育て・教育・学びについて』

(子育て支援、こどもの教育、結婚・妊娠・出産しやすい環境づくり)

### 【参加者】

\*女性：7 名

\*議員：総務文教常任委員会 (5 名)

委員長 八幡元弘、副委員長 坂上清一

委員 渡辺俊、天木義人、坂上隆夫

### 【主な発言】

- 参加女性 子どもを預けたくてもどこに相談すればいいのかわからない。具体的な情報を紙だけでなくホームページにも公開してほしい。
- 参加女性 子育てで困った時、相談窓口がどこなのかわからない。  
⇒議員 市役所でもほっと H O T・中条でも対応するので、まずは自ら行動することも大切。
- 参加女性 市が実施している子育てに関する具体的な制度や相談できる場所などの情報を母子手帳をもらう時など、子どもが生まれる前の余裕がある時に知りたい。また、紙を

渡すだけでなく、簡単でいいので内容説明をしてもらえると助かる。また、入園式など、節目ごとにそういった情報がもらえるといい。

- 参加女性 子どもに障がいがあり支援が必要な学校に通わせようと思うが、今通っている学校に聞いても情報が得られず、情報収集が大変だった。結局、自分で調べたり、市内の支援学級を見学したり、同じ障がいのある子の親に聞いたりした。もう少し、そういった情報を調べられる環境を整備して欲しい。
- 参加女性 中学校の生徒数の減少で部活数が減少し、好きな部活、続けてきた部活ができず、他校に転校する生徒もいる。ふれすぽ、陸上競技場などを活用することで、転校せずにやりたい競技を続けるようにできないか。  
⇒議員 以前、教育委員会に話をしたが、送迎手段、送迎バス費用の問題がありなかなか進まない状況である。
- 参加女性 幼稚園が1クラス、小学校も1クラス、中学校も1クラスだと学びの場所として人間関係は大丈夫か将来が不安になる。このまま新潟市の大きな高校に行った場合、友達ができるか心配である。小中学校時に市内の全学校で学年ごとに集まるなど、他校とふれあう場があるとよい。
- 参加女性 小学校では、ボランティア活動が活発だが中学校では活動がなくなり、地域との関わりがなくなる。地域の人達と関わりをもってボランティアの方に支援してもらいたい。
- 参加女性 小学校の授業で先生の教え方が様々ある。中学校にあがると出身小学校で学力に差が出る。
- 参加女性 市長、教育長（教育委員会）とPTA・保護者等で子どもの部活・教育について意見交換の場を設けてもらいたい。  
⇒議員 意見交換の場を設けるよう教育委員会に伝える。
- 参加女性 今後、中学校では先生の勤務時間の関係でクラブ活動がなくなるのではないかと心配。
- 参加女性 保育園の頃から子ども・親の市内全域の交流があると良い。そうなると、どこかの小学校・中学校に行っても、交流するきっかけになる。
- 参加女性 保育園で年末年始に家庭保育期間があるが、人数が少ないといつもと違う保育園に預けることになり、子どもも親も不安になる。
- 参加女性 お金のかからない公園がほしい。樽ヶ橋遊園の遊具を無料にしてほしい（市民は無料などのメリットがほしい）。

## 【2班】テーマ：『健康・福祉について』

(健康づくり、生きがいつくり、地域支え合い活動、介護予防等)

### 【参加者】

\*女性：9名

\*議員：副議長 小野徳重

厚生環境常任委員会（5名）

委員長 森本将司、副委員長 羽田野孝子

委員 渡辺宏行、桐生清太郎、渡辺栄六

### 【主な発言】

- 参加女性 鼓岡のお茶の間サロンは月1でレクリエーション、バスハイクなど行っているが16人ぐらい集まっている。前は子供とのふれあいで運動会・発表会等があったがスクールバス通学になってしまって寂しいとの声を聞いた。にこ楽で小さい子とふれあう機会を年1~2回つくってもらえないか。
- 参加女性 菅田では7~8人高齢者が毎日集まっている。他に昔から2日、15日、20日様に80歳代が集まっている。女性は元気だが、男性は出たがらない。普段の見回りは大事だと思う。高齢者だけの家が増えている。
- 参加女性 世帯数が少ないので、隣の新館は月1でサロンをしていて誘われるが参加しづらい。旧柴橋小学校で月1回体を動かし、月2回夜7~8人でヨガをしている。昨年からもっと体を動かしたいと公民館で通いの場をしている。10人前後集まる。
- 参加女性 東本町4はサロンを春から月2回している。バス旅行、昔話など20人來ている。ホットプレートを使ってみんなで料理を作るのが一番人気。買い出しから行い、最後に一人暮らし世帯に配っている。
- 参加女性 柴橋はサロンを立ち上げ10年近くになる。最近では20人前後集まる。バス旅行で紅葉を見に行ったりしている。男性は少ない。グランドゴルフが盛んで70歳以上男女問わず集まっている。60歳代は勤めている。毎週体操教室、踊りのグループ等が盛ん。子供会は祭り、獅子舞に参加している。子供会は代表者の考え次第で難しい。一人暮らしが増えている。家族との同居は大事。
- 参加女性 西条町2は週1で通いの場、元気会は月1で施設へ歌のボランティア、グランドゴルフをしている。NPO法人奥山の荘で新規のサービスの依頼があると面談に行っているが、携わっていると健康長寿でいたいと思う。
- 参加女性 関沢はサロンや茶の間はない。福祉会で余興のボランティア、社協に手伝ってもらって年数回集まりをもっている。地域主催は難しい。70歳後半~80歳代は元気で、

声をかけると 60 歳代が手伝うと言って集まる。年齢のばらつきが難しい。老人会、念仏の集まりはある。

- 参加女性 いろんなサロンがあると思った。歩くのがやっとな人。男性が少ないのが課題。保育園で祖母との交流で、車椅子の祖母が来たが対応がなかった。運動会でも車椅子の人の配慮があったらいいと思う。
- 参加女性 八幡はサロンを 300 円で 10 時～15 時までで、弁当が出る。会長・副会長・会計も必要で大変そう。男性の参加は区長に入ってもらおうとまくいと思う。今、農協に頼んでサロンをしてもらっている。81 歳～93 歳の方は月 1 で第 4 木曜日に来てくれる。
- 議員 鼓岡は小中学生 15 人。学校統合は複式学級になる前にした。子供と高齢者のふれあいは集落単位で月 1 回、夏休み・春休みに 1 回あったほうがいい。
- 参加女性 集まりにはほとんどが女性で、男性は出てこない。
- 議員 男性はさそっても出ない。「俺は家にいる」と言って自転車で用足しに出かけている。70 歳以上は出ない。
- 参加女性 男性は何をしているのか。「俺が行くところではない」と言う。畑、ゲートボールがある。本来は将棋・囲碁。料理は若い人。集落全体で取り組む形がいい。
- 議員 星の宮は男性の会が先にできた。麻雀・旅行・酒飲みなど 1,000 円会費。女性は婦人会を作り出した。自主防災クラブがあり、見回りをしている。
- 参加女性 健伸館で金曜日にミニデイで入浴してもらっている。男性 4～5 人参加。苔実、竹島合同のサロン月 1。25～26 人の女性と男性 2 人。カラオケに男性 2～3 人来る。
- 参加女性 成功している所はサロンの目的を作っている。手品、アコーディオン、防災に関する備え等。
- 参加女性 去年、小学生 2 人、中学生 3 人でじいちゃん達に灯籠づくりを教えてほしいと習っていた。町外の孫も加わって子供達 10 人ぐらい集まって作った。祭りを見に来てくれた。
- 参加女性 町内で世代間交流ができればいい。祭りとか餅つき大会等。町内で子育てできれば最高。

## [意 見]

- 参加女性 ふれすぽ胎内は、遠いので山手でスポーツができればいい。  
⇒議員 スポーツハウスでゲートボールをしている。にこ楽、黒川体育館、鼓岡小学校体育館を使えるようにできないか。
- 参加女性 介護保険料、どうにかならないか。私は民生委員だが回っていると言われる。年金生活の人も高いと言う。支払うことになったばかりの人からも言われる。検討いただ

きたい。

○参加女性 中央公民館の使用料が来年から必要になると聞いた。認定団体なので今は免除されている。エレベーターがなくて不便、いつか設置できないか。

⇒議会事務局 公民館の使用料について、後日、生涯学習課へ確認したところ、「来年度についても使用料変更の予定はありません。」と回答がありました。

○参加女性 中央公民館と比べて黒川公民館は暖房費が高いと思う。改訂してもらいたい。暖房器具が壊れている。

○参加女性 デイサービスセンターと・も・だ・ち が生きがいで、なくなるのは困ると言っている人がいる。

⇒議員 リハビリの必要な人が対象となるデイケアセンターになる。

## 【3班】テーマ：『産業・雇用・生活基盤について』

(特産物開発、6次産業化、中小企業への支援、人材の育成・確保、交通手段の確保、防災、防犯等)

### 【参加者】

\*女性：6名

\*議員：議長 薄田 智

まちづくり常任委員会（4名）

委員長 渡辺 秀敏、副委員長 佐藤 陽志

委員 丸山 孝博、森田 幸衛

### 【主な発言】

○参加女性 中核工業団地の現状はどうか。スマートインターもできるが誘致は進んでいるか。

⇒議員 企業24社入っている。80%うまっている。来年度2社増える。東洋ろ紙の竣工は1月で40人ほどの雇用が見込まれている。ナカショクは150人ということだが、当初計画より遅れているようだ。さらに引き合いが2社ある。笹口浜等のソーラー発電では雇用はうまれない。スマートインターは36年3月供用開始。ジャムコはインターチェンジができるということも胎内市に来た条件の一つ。太陽光発電も含め80%。

○参加女性 胎内市の平均年収は？

⇒議員 年所得251万円で県内では15位/30市町村。新潟市は300万円ほど。

○参加女性 6次産業とは何か？

⇒議員 1次から3次産業までを組み合わせ、付加価値をつけること。農協も生産加工販

売に取り組む。赤飯の仕出しなど。

○参加女性 パッケージをかわいくすると売れた例もある。商品も含めアイデア勝負というところがあるが、当たらなければすぐに赤字になる。現在は協力隊の活動を見ている。1次産業だけで手いっぱい。2次産業の方と連携を取りたい。つながりが欲しい。それでリスク分散できる。

○議員 女性が働くことについての課題はあるか？

⇒参加女性 産休は1年休むことになる。そのことを社会的にも受け入れてほしい。夫に早く帰ってきて育児参加してほしい。夫にも16時に帰り20時に子どもとともに寝る生活をしてもらいたい。世の中には頭が固い人たちがまだいる。このような方が多いと感じる。

⇒参加女性 女性の中には対応力が高く、考えをしっかりとった人もいる。また、最近の若い男性の中では弱い人もいる。某社では出産お祝いデーがあるが男性は使わない傾向がある。

⇒参加女性 地震などの震災があったとき、男性は家事や育児ができるか心配。防災防犯力を高めたい。戦争もあるかもしれない。お父さんしかいないときに、できなければいけないので知識と技術が必要。男性も家庭に目を向け、女性も社会に出るとよいと思う。

○議員 市内で地域支えあい9か所の地域で行われている。子ども食堂などの現状は。

⇒議員 リーダー次第というところがある。子ども食堂などは社協と連携をとって行っている。実施は月2回。1回40～50人が来る。貧困層が来ているかわからないが、そういった方が多い地域でやりたい。地域のことを良くわかる人がやるべき。西本町は補助金を活用している。地域のゴミ出しや草刈りも行う。9班あり、班ごとに避難訓練も行っている。

○議員 市内には、貧困家庭もある。また、高齢者のみの世帯もある。地域の商店がなくなると買い物などに困ると聞いた。

⇒参加女性 父が移動販売をやっている。場所を貸してもらえるかが課題である。

○参加女性 社協のバスは月2回まで利用できる。公共交通は採算が取れない。デマンドタクシーも新しい仕組みが必要なのでは。路線エリア分けされている。

○参加女性 警察署統合の弊害は。ランクが落ちるのか。治安はどうなるのか。

⇒議員 新発田署胎内分署となってからパトカーが多いと感じる。ある程度の抑止力となっているのではないか。

⇒議員 防犯灯を増やしたいと考える。コンビニ周りなどに防犯カメラを設置してもらいたいと考えている。ただ、予算の関係もある。街灯をLEDにすると明るくなる。また、電気代の負担を地域集落ではなく胎内市が負担するようお願いしている。

- 参加女性 黒川庁舎はなくなるのか。黒川消防署はなくなるのか。
- ⇒議員 黒川庁舎がなくなるとは聞いていない。消防は広域事務組合の検討材料。
- 参加女性 応急救護の訓練を各地域でやっているが、日程が合わないのか若者がこない。新栄町の黄色い旗を使った安否確認の取り組みはよい。また、台風の際、胎内市は避難所を開設したが、それがどこなのかわからない人がいた。民生委員が都合により対応できなかったので、代理が必要なのではないか。
- 参加女性 黒川地区の方はふれすぽが遠いと感じている。胎内市はここ一ヶ所だけだった。いざというときは気が動転する。避難所へ行くための訓練が必要では。また、周知の方法も検討してもらいたい。
- ⇒議員 ふれすぽを知らない人もいる。避難所を多く開設すれば、それだけ市役所職員も出動しなければならないが、他の市町村では多数の避難所を開設した所もあるようで、課題である。一人暮らし高齢者をどうやって連れていくかも課題。
- 参加女性 選挙は、お願いされたから投票している人が多いと感じる。そういった意味で自立している女性を増やしたい。また、政治や選挙に関心を持ってもらうことが必要ではないか。市役所職員にも市民目線を持ってもらいたい。